

ブックちゃんの

2015年6月16日

# ふじのみや探検

第16号 富士山 植物のひみつ



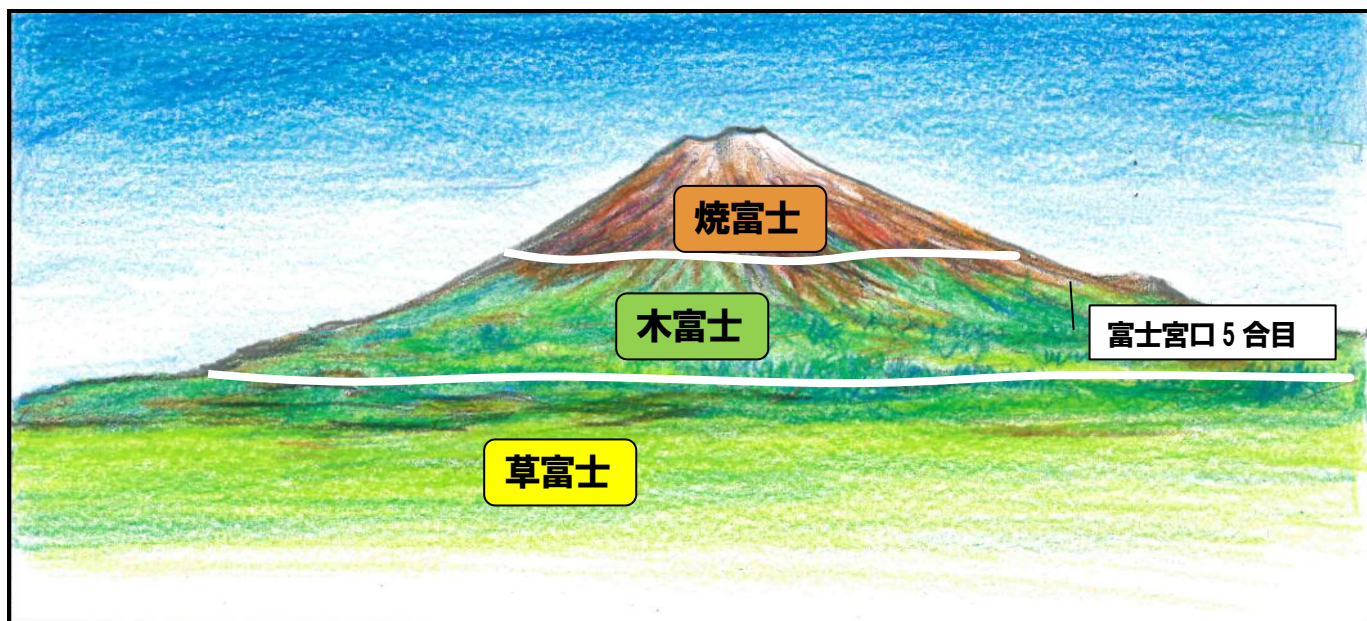
発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

## ひみつ1 富士山には、どんな植物があるの？ 植物にとって、富士山ってどんな山？

富士山の高さによって、富士山を「草山」・「木山」・「焼山」の3つにわけてよんでいる人や地域があります。富士山でのくらしや富士山信仰から生まれたよび名です。かんたんでわかりやすいですね。ここでは、「山」を「富士」とおきかえて、「草富士」・「木富士」・「焼富士」とします。草富士は朝霧高原のイメージです。標高は500～900mくらいで、ススキなどがいちめんに広がり、牧草地や畑もあります。また、スギ・ヒノキの植林がおこなわれています。木富士は、標高900～2500mくらいで、カラマツやブナなどの自然林とヒノキ・スギの人工林がみられます。焼富士は、標高2500mくらいから山頂の3776mまでで、草木があまり育つことができず、土砂、石、岩でおおわれているところです。

富士山は、標高が高く独立峰であり、まだ新しい火山であるので、ほかの高山とは異なった植物がみられます。標高が高いということは、高いほど気温が下がり、また風がたいへんつよくふき、草木が育つことがむずかしくなります。独立峰とは、ほかの山とならんでいないことで、植物の種が広がりにくくほかの山の影響を受けにくいこととなります。新しい火山であることは、地面が安定していないため土が流れやすく、また栄養が不十分で植物が育ちにくいことを意味します。

そのようなきびしい環境のなかでも、たくましく、美しく生きている植物が、富士山にはあります。また、富士山のめぐみを活用したり、守ったりするために、注目している植物もあります。



### ◇ ことばの説明

標高…海面(平均海面)からの高さ。日本では東京湾の平均海面を0メートルとする。  
高いほど気温が下がり…標高が100m上がると、気温が0.6度さがる。

## ひみつ2 富士山らしい木は、なに？

カラマツです。富士山にはカラマツが多い。標高800mから2800mあたりまで広くはえています。

カラマツは、寒さや乾燥、やせた土地にもたえる性質をもっているため、富士山のような火山にも育ちます。次の3つのカラマツをくらべてみよう。



標高2600mのカラマツ。地面をはい、幹もねじれています。樹齢100年以上です。



標高2500mのカラマツ。西から東へ一年中強い風がふき、旗を立てたような形になっています。



標高1400mから1700mのカラマツ。まっすぐに上にのび、20~30mの高さになります。

標高のちがいにたえぬいてたくましく生長していくカラマツ。このようにさまざまな形をしているカラマツが見られるのは、富士山だけです。

だから、富士山のカラマツは、地形や気象など富士山の環境を象徴するにふさわしい樹木といえます。

地元ではこのカラマツを「富士松」とよんでいます。

### ◇ ことばの説明

- 樹齢…木の年れいのこと。
- 気象…地球をとりまいている気体のようす。

## ひみつ3 日本一高いところにはえている草木は、なに？

5合目から登っていくと高い木がまったく見えなくなり視界がひらけるところがあります。そこを森林

限界(標高2500~2800mくらい)とよんでいます。さらにその上の標高で、木が育つことができないところを樹木限界とよんでいます。その付近では、ミヤマハンノキ、ダケカンバ、ミヤマヤナギなどの低い木々がみられます。ミヤマハンノキは空気中の窒素をとって生長し、秋には栄養いっぱいの葉を落とし、富士山の土づくりをになっている樹木です。

草は樹木限界の上でも育つことができます。イタドリ、オンタデ、ミヤマオトコヨモギ、コタヌキランが見られます。オンタデは、根が2~3mものびる草です。山頂は、コケだけだと思われていましたが、コタヌキランがみつかりました。

富士山は、風が強く土砂や小石が飛ばされたり雨で流されたりして、地面が安定していません。

富士山では、根を地中深くはり、少ない養分でも生きていくことができる植物がみられます。



オンタデ

### ◇ ことばの説明

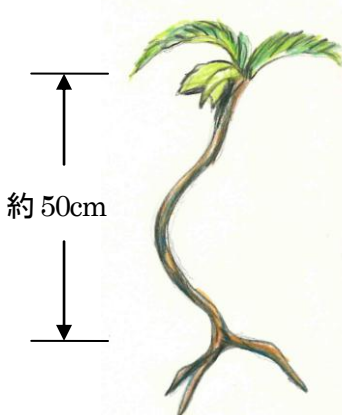
- 5合目…登山の入り口から頂上までを10に分けて、登るめやすにした。5合目は、半分くらいのところ。

## ひみつ4 フジアザミって、どんな花？

富士砂防事務所は、昭和57年、富士山の大沢くずれを防ぐために調査を開始しました。富士山は土砂がくずれて、ふもとに大きな災害をあたえます。

砂防ダムをつくるだけでなく、できるだけ富士山にあるものを活用して、土砂がくずれることを防ぐ対策をたてています。そのひとつとして、富士山に自生しているフジアザミに注目しました。

フジアザミは、根が太くて杭のような役目をする  
こと、たくさんの種をつけること、早く生長することが特徴です。このことに注目して、フジアザミの苗などを土砂のくずれそうな場所に植えています。



3年目のフジアザミの根

フジアザミの根が船のイカリのように先がわかれ、ぬげにくい形になっています。



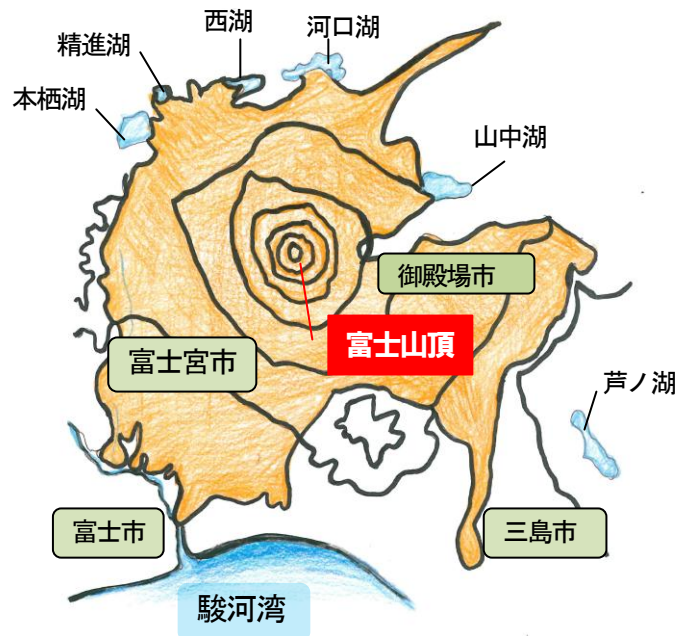
### ◇ ことばの説明

- 富士砂防事務所…富士山の土石流を防ぐ仕事、富士山の火山調査、由比のじすべり対策をする国のしせつ。
- 自生…人のたすけをうけずに、あるところにもとから生きつづけていること。

## まめ知識 富士山は、どこからどこまで？

富士山は、約10万年前から1707年の宝永噴火まで、なんども噴火をくりかえしてきました。そのたびに火口や中腹から大量の溶岩を流れ出しました。噴火がおさまり、溶岩が固まり、長い年月がたち、そこに新しい植物が育ち、現在の富士山がみえます。

富士山のふもとから山頂までを富士山と考えるかもしれませんが、地質学上は、富士山の溶岩が流れ出たところまでを富士山としています。下の図の茶色のところは、富士山の溶岩が流れ出たところを示しています。山梨県の富士五湖のある鳴沢村、山中湖村、河口湖町、富士吉田市。静岡県の富士宮市、富士市、御殿場市、小山町、裾野市、長泉町、清水町、そして三島市まで溶岩が流れ出たことが調査によってわかりました。富士宮市の城山公園では、溶岩の流れの跡を見ることができます。「大宮縄状溶岩」と名付けられ、富士宮市の天然記念物になっています。大きくとらえると、わたしたち富士宮市民は富士山の上にくらしているともいえます。

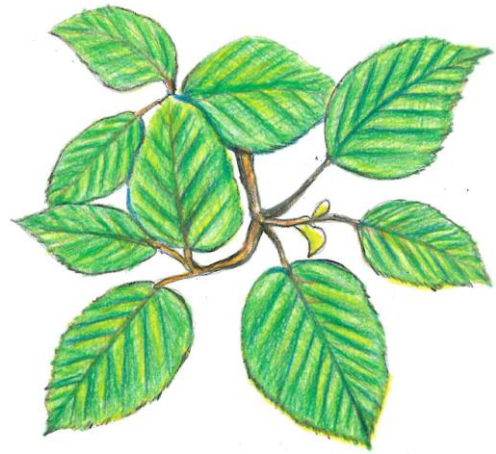


### ◇ ことばの説明

- 宝永噴火…江戸時代の宝永4年に起きた噴火で、その後、富士山は噴火していない。
- 天然記念物…法律で保護・保存する貴重な植物、動物、鉱物。
- 地質学…地球のことを調べる自然科学のひとつ。



ミヤマオトコヨモギ



ミヤマハンノキ



コタヌキラン



おみやなわじょうようがん  
大宮縄状溶岩(城山区誌より抜粋)

◇『第16 富士山 植物のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。

- 1 『植物たちの富士登山』 清水清 /あかね書房 1987
- 2 『富士山の極限環境に生きる植物』 増沢武弘/富士砂防工事事務所 1991
- 3 『まるごと観察富士山』 鎌田浩毅 編著/誠文堂新光社 2013
- 4 『日本一の火山 富士山』 荒牧重雄 太田美代/山梨県環境科学研究所 2008
- 5 『富士山の植物』 清水 清/ 東海大学出版会 1977
- 6 『日本の森あんない』 石橋睦美 /淡交社 1995
- 7 『ポケットブック 富士山の草花』 佐野光雄 /勉誠出版 2014
- 8 『地学事典』 地学団体研究会 /平凡社 1996
- 9 『日本地形用語事典』 日下 哉 /東洋書店 2002
- 10 『まるごと富士山みんなの富士山』 富士山愛好会/ 宝島社 2005

